

保育所自己評価【令和4年度】

【評価について】評価に当たっては、以下の基準で評価を行っている。

A：大変良い　　B：良い　　C：一部検討を要する　　D：改善を要する

第1章 総則

保育所保育に関する基本原則

		評価
保育所の役割	子どもの最善の利益を考慮して、最もふさわしい生活の場になることを理解する。	A
	子どもの人格尊重を意識して保育を行っている。	A
目標	保育所の理念・方針・目標を職員で共通理解を図っている。	A
	保育所の保育理念や目標を保護者に周知している。	A
保育の方法	子ども一人ひとりの特性や発達の過程に応じ、発達の課題に即した援助を行うよう心掛けている。	A
	子どもの主体的な活動を促し、意欲を持って遊べるような援助を心掛けている。	A
保育の環境	環境の構成を意識した保育や過程を工夫している。	A
保育所の社会的責任	個人情報適切に扱い、保護者の苦情に対し解決を図るように努めている。	A

養護に関する基本的事項

		評価
養護の理念	養護と教育を一体的に行うことを意識して保育にあたっている。	A
生命の保持	一人ひとりの健康状態や発達について把握し、異常に感じる時には適切な対応をする。	A
	生理的欲求が十分に満たされるよう、適切な援助や応答的な関わりをしている。	B
情緒の安定	子どもの気持ちを理解し、信頼関係を築くよう心掛けている。	A
	自分の思いや意見をはっきり伝えられるように配慮し、尊重している。	A

保育の計画及び評価

		評価
全体的な 計画の作成	保育方針や目標に基づいて、保育所の保育を包括的に示すものとして全体的な計画を作成している。	A
指導計画の 作成	日常の保育を通して、子どもの思いや気持ちを汲み取りながら指導計画に反映させている。	A
	各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	A
	日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、指導計画を作成している。	B
	子どもが主体的に活動できるよう環境設定をしている。	A
指導計画の 展開	子どもの実態や状況の変化に応じて見直しや改善を行っている。	A
保育内容等の 評価	保育の質の向上を図るために、保育所の自己評価を行っている。	B
評価を 踏まえた 計画の改善	園全体としての評価を行い、全職員共通理解のもと改善に努めている。	B

幼児教育を行う施設として共有すべき事項

		評価
育みたい 資質・能力	育みたい資質、能力を理解している。	A
	長期的な見通しをもった計画を立て、年齢ごとに必要な経験が出来るように努めている。	A
幼児期の 終わりまでに 育って ほしい姿	『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を理解し計画を立て、保育にあたっている。	A

第2章 保育の内容

乳児保育に関わるねらい及び内容

		評価
基本的事項 ねらい及び 内容 保育の実施に 関わる 配慮事項	特定の大人との関わりを通して、愛情豊かに、応答的に保育を行っている。	A
	離乳食については、家庭と連携を取りながら、一人ひとりの子どもの状況に配慮して行っている。	A
	一人ひとりの生活リズムに合わせて、睡眠をとることができるように、静かな空間が確保されている。	B
	午睡中は体を仰向けにすることを認識して、体温・顔色・呼吸の安全確認をしている。	A
	生活や遊びの中で、音・形・色・手触りなどに気づかせて様々なものに触れさせている。	B
	上体を支え足の動きを促すなど、遊びを通して身体発達の援助を行っている。	B
	オムツの交換、授乳などのサインを見逃さず受け止め対応している。	A
	発声や喃語などを優しく受け止め応える事で、言葉の理解や発語の意欲を育てる。	A
誤飲、転倒など大事故に繋がらないように安全環境に配慮している。	A	

1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容

		評価
健康	生活リズムについては、一人ひとりの子どもの状態に合わせて対応している。	A
	走る・跳ぶ・登る・押す・引っ張るなど全身を使う遊びを取り入れている。	B
	楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする気持ちを大切にしている。	A
	身の回りを清潔に保つ心地良さを感じ、その習慣が少しずつ身につくように援助している。	A
	子どもが自分で衣服を着脱しようとする気持ちを尊重している。	A
	一人ひとりの排泄状況に応じた配慮をしている。	A
人間関係	保育士等との安心した関わりの中で園生活を送れるようにしている。	A
	他の子どもとの関わり方を少しずつ身に付けられるよう仲立ちをしている。	A
	自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりする経験を重ねていけるよう援助している。	A
環境	玩具や遊具は安全で、子どもの興味や発達に合った物を選び使用させている。	B
	積極的に戸外遊びを取り入れて身体の発達を促している。	A
	見る、聞く、触れるなど感覚の働きを豊かにしている。	B
言葉	楽しい雰囲気の中で保育士等との楽しい言葉のやり取りが出来るようにしている。	A
	絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	A

表現	水・砂・土・紙・粘土など様々な素材に触れて楽しませている。	B
	音楽・リズムなどに親しみ、歌や手遊び、全身を使う遊びを取り入れている。	A
	子どもの表現をしっかり受け止め、共感している。	A
保育の実態に 関わる 配慮事項	体の状態、機嫌、食欲など日常の状態の観察を十分に行う事で感染症を予防している。	A
	事故防止に努めながら様々な遊びを取り入れている。	A
	進級などで保育士が変わる時は、子どもの発達に留意し職員間で協力して対応している。	A

3歳以上児の保育に関するねらい及び内容

		評価
健康	生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくよう保育している。	A
	食べる喜びや楽しさを味わいながら、食べ物への興味や関心を持てるようにしている。	B
	十分に体を動かす気持ち良さを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つよう援助している。	A
	園内外の危険な場所を知り、安全に気を付けて遊ぶように働きかけている。	A
人間関係	友だちと共通の目的を見つけたり、遊びを一緒に工夫、協力して共に達成感が味わえるように働きかけている。	A
	良い事や悪い事があることに気づき、考えながら行動できるように援助している。	A
	友だちと生活する中で決まりの大切さに気づき守れるように配慮している。	A
	生活や遊びの中で意欲を大事にして頑張ろうとする力、自信、自己肯定感を持てるような言葉掛けや援助をしている。	A
	身近な友だちとの関わりを通して、相手を思いやり譲り合う気持ちを持てるように援助している。	B
環境	園生活の中で、数量や図形、文字に触れる機会を取り入れている。	B
	伝統行事や異なる文化に触れる機会を作っている。	A
	自然と直接触れ合う遊びを季節に合わせて取り入れている。	B
言葉	人の話を聞くことが出来、日常生活に必要な挨拶や会話を身に付けさせている。	A
	絵本や紙芝居などを通して、物語の美しさや言葉の面白さに気づくよう心かけている。	A
	子どもが自分の経験や要求を自分なりに表現できるように配慮している。	A
表現	音楽に親しみ、歌を歌ったり、踊ったり、リズム楽器を作ったりする楽しさを味わう機会を作っている。	A
	一人ひとりの子どもの表現の過程を大切にし、自己表現を楽しめるよう心がけている。	A

保育の実施に関して留意すべき事項

		評価
保育全般に関わる 配慮事項	一人ひとりの子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえ、気持ちを受け止め援助している。	B
	子どもが安心感を持ち、生活できるように配慮している。	A
小学校との 連携	小学校との意見交換や合同の研修会の機会などを設けて情報共有や連携を図っている。	A
	子どもにおける情報共有に関して保育所児童保育要録を作成している。	A
家庭及び 地域社会との 連携	家庭や地域社会と連携し、豊かな生活体験をはじめ、保育内容の充実が図られるよう配慮している。	A

第3章 健康及び安全

子どもの健康支援

		評価
健康状態や 発育及び発達 状態の把握	感染症発生時に発生状況や感染予防について保護者に通知している。	A
	不適切な養育の兆候や虐待が疑われる場合には関係機関と連携対応している。	A
健康増進	内科健診や、歯科検診の結果について、保護者や職員に周知している。	A
	子どもの健康情報、既往歴について、全ての職員に周知すると共に、その発生時の対応を行っている。	A
疾病等への 対応	アレルギー疾患や慢性疾患などを持つ子どもに対し、主治医からの指示を得て適切な対応を行っている。	B
	アレルギー疾患を持つ子どもに対し、栄養士、調理員と連携を持ち、ここに合わせた対応を行っている。	A

食育の推進

		評価
保育所の 特性を 生かした食育	乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、給食について見直しや改善をしている。	A
	乳幼児期に身につけておきたい食事のマナーを伝えている。	A
	食育だよりなどを通じて保護者の方に年齢に適した食材や形状を知らせている。	B
食育の 環境の整備等	栄養士、調理員、保護者と連携を持ち、個々に合わせた対応を行っている。	A
	畑での野菜の栽培や、調理体験を通して食べることを楽しむ機会を作っている。	A

環境及び衛生管理並びに安全管理

		評価
環境及び衛生管理	園内の清掃がされ、清潔に保ち、子どもが心地よく過ごせるように配慮している。	A
	園内に子どもが季節感を味わえるような工夫をしている。	A
	子ども達が活動しやすいように、保育室の温度、湿度、換気などに配慮している。	B
事故防止及び安全対策	ヒヤリハットを共有し、事故防止に努めている。	A
	睡眠中、水遊び中、食事中などの場面で重大事故が発生しやすいことを認識し、事故防止に努めている。	A
	防犯のために地域の防犯委員さんや警察と連携をとれるようにしている。	B

災害への備え

		評価
施設・設備等の安全確保	避難訓練を定期的に行い、消火器の扱い、通報の仕方などを職員が周知している。	A
	施設の安全点検を行い、改善をしている。	A
災害発生時の対応体制及び避難への備え	火災や地震などの災害の発生に備え、緊急時の対応手順や職員の役割分担を行っている。	A
	緊急時の園時引き渡しの訓練を行い、保護者と連携体制や引き渡し方法の確認をしている。	A
地域の関係機関等との連携	災害時には地域の関係機関と連携を図り、協会が得られるように努めている。	A

第4章 子育て支援

保育所における子育て支援に関する基本的事項

		評価
保育所の特性を生かした子育て支援	地域や家庭背景等を踏まえ、保護者が子育ての悩みや心配事を安心して話せるようにしている。	A
子育て支援に関して留意すべき事項	保護者や子どものプライバシーを保護し、知り得た事柄の秘密を保持すること。	B

保育所を利用している保護者に対する子育て支援

		評価
保護者との相互理解	送迎時や連絡帳などを使い、保護者と情報交換をしたり、個人面談をする機会を設けている。	A
	えんだよりやクラスだよりを定期的に発行している。	A
保護者の状況に配慮した個別の支援	子どもに発達上の課題が見られる場合には、関係機関や市町村と連携を図りつつ、保護者に対して個別の支援を行うようにしている。	A
不適切な養育等が疑われる家庭への支援	保護者に不適切な養育等が疑われる場合には要保護児童対策地域協議会などと連携を取り適切な対応を図っている。	A

地域の保護者等に対する子育て支援

		評価
地域に開かれた子育て支援	地域における子育て支援を実施し、地域の子育て支援ニーズを把握するように努めている。	B
	子育て支援の情報提供をしている。	B
地域の関係機関等との連携	地域の関係機関等との積極的な連携や子育て支援に関する地域の人材と積極的に連携を図っている。	A

第5章 職員の資質向上

職員の資質向上に関する基本的事項

		評価
保育所職員の求められる専門性	相手の立場に立った挨拶、電話、来客の対応ができています。	B
	保育業務の中で知り得た子どもや過程に関する秘密保持について、全職員に周知し、守られている。	A
	保護者や地域のひとから相談事項についてプライバシー保護の保持を徹底して守っている。	A
施設長の責務	施設長は保育所の役割や社会的責任を遂行するために、専門性の向上に努め、必要な環境の確保に努めている。	A
職員における研修	外部研修、園内研修を実施し、保育の質の向上を図る為日常的に職員が研修を受ける機会を作っている。	A
研修の実施体制等	各職員の職位や職務内容等を踏まえて体系的な研修計画を作成している。	A
	研修で得た知識及び技能を他の職員と共有をしている。	A